

令和3年10月18日
千葉県農林総合研究センター長

I 向こう1か月の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。また、予報の根拠の(+)は多発要因、(-)は少発要因であることを示す。並〔発生なし〕は平年並で、今年発生がないことを示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
夏 秋 ト マ ト	灰色かび病	やや多	9月下旬発生量：やや多(+) 気象予報 ：降水量並か多(+) 日照時間少か並(+)	<ul style="list-style-type: none"> 施設内の換気を良くし、湿度をできるだけ下げる。 発病果、発病葉は早めに摘除し、施設外に持ち出し適切に処分する。
	コナジラミ類	多	9月下旬発生量 オンシツコナジラミ：やや多(+) タバココナジラミ：多(+) 黄色粘着トラップ誘殺数 ：多(+) 気象予報：気温並	<ul style="list-style-type: none"> 発生初期から薬剤防除する。 施設内外の除草等で耕種的防除に努める。 タバココナジラミについては、黄化葉巻病を媒介する。 栽培終了時にはハウス内を除草、トマトを抜根した状態でハウスを密閉し、完全に枯死させて本虫を死滅させる。
	アザミウマ類	少	9月下旬発生量：少(-) 黄色粘着トラップ誘殺数 ：少(-) 気象予報：気温並	<ul style="list-style-type: none"> 発生初期から薬剤防除する。
冬 キ ャ ベ ツ	黒腐病	やや多	今春発生量：並 10月上旬発生量 ：並〔発生なし〕 気象予報：気温並 降水量並か多(+)	<ul style="list-style-type: none"> 結球始めころから薬剤防除する。 風雨で傷を受けないよう管理に注意し、風雨後は速やかに薬剤防除する。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
秋冬ネギ	黒斑病	並	10月上旬発生量：やや少（－） 気象予報：気温並 降水量並か多（＋）	<ul style="list-style-type: none"> 肥料切れしないようにする。 発生初期から薬剤防除する。
	さび病	やや多	10月上旬発生量： 並〔発生なし〕 気象予報：降水量並か多（＋）	<ul style="list-style-type: none"> 発生初期から薬剤防除する。
	べと病	やや多	10月上旬発生量： 並〔発生なし〕 気象予報：気温並 降水量並か多（＋） 日照時間少か並（＋）	<ul style="list-style-type: none"> 気温が15℃前後の多湿条件で発生しやすい。発病してからの薬剤散布では効果が劣るので、降雨や霧の発生が予想される時などには、「ねぎべと病なび」も参考に、予防散布を行う。
	ネギアザミウマ	やや多	10月上旬発生量：やや多（＋） 気象予報：気温並 降水量並か多（－）	<ul style="list-style-type: none"> 発生初期から薬剤防除する。
イチゴ	うどんこ病	やや少	10月上旬発生量： 少（－） 気象予報：気温並 日照時間少か並（＋）	<ul style="list-style-type: none"> 発生初期から薬剤防除する。
	ハダニ類	並	10月上旬発生量：並 気象予報：気温並	<ul style="list-style-type: none"> 発生初期から薬剤防除する。 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
温州ミカン	黒点病	多	9月下旬発生量：やや多（+） 気象予報：気温並 降水量並か多（+）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 薬剤防除する場合は、収穫前使用日数に注意する。 ・ 枯れ枝は伝染源となるので除去し、園外で処分する。
	ミカンハダニ	並	9月下旬発生量：並 気象予報：気温並 降水量並か多（-）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 寄生葉率が20%以上の場合に薬剤防除する。
	カメムシ類	やや多	9月下旬被害果率 ：並 [発生なし] 9月果樹予察灯誘殺数 ：多（+） 9月フェロモントラップ誘殺数 ：並 9月中旬ヒノキ球果捕獲成幼虫数 ：並 気象予報：気温並 降水量並か多（-）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 薬剤防除する場合は、収穫前使用日数に注意する。
ビワ	灰斑病	やや少	9月下旬発生量：少（-） 気象予報：気温並 降水量並か多（+）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝染源は旧葉の病斑であるから、罹病葉を摘除し落葉は集めて園外で処分する。
カーネーション	アザミウマ類	少	9月下旬発生量：少（-） 気象予報：気温並	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設内外の雑草や花がらは適切に処分し、ほ場周辺に放置しない。 ・ 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
	ハダニ類	少	9月下旬発生量：少（-） 気象予報：気温並	<ul style="list-style-type: none"> ・ 早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。 ・ 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
野菜・花き共通	コナガ	並	10月上旬発生量 冬キャベツ：並 [発生なし] 9月フェロモントラップ誘殺数 ：並 気象予報：気温並 降水量並か多（－）	・ 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
	ハスモンヨトウ	並	9月フェロモントラップ誘殺数 ：やや少（－） 9月下旬発生量 夏秋トマト：並 [発生なし] カーネーション ：やや多（＋） 10月上旬発生量 イチゴ：並 秋冬ネギ：やや多（＋） 気象予報：気温並 降水量並か多（－）	・ 中齢期以降の幼虫は薬剤の防除効果が著しく低下するため、早期発見、早期防除に努める。
	シロイチモジヨトウ	多	9月フェロモントラップ誘殺数 ：多（＋） 10月上旬発生量 秋冬ネギ：多（＋） カーネーション ：並 [発生なし] 気象予報：気温並 降水量並か多（－）	
	オオタバコガ	やや少	9月フェロモントラップ誘殺数 ：やや少（－） 9月下旬発生量 カーネーション ：並 [発生なし] 気象予報：気温並 降水量並か多（－）	

Ⅱ これから注意を要する病害虫

ナシの黒星病・炭疽病 ～秋季以降の防除について～

<黒星病>

黒星病については、昨年 10 月の秋型病斑調査での罹病葉率は平年並、2 月実施の腋花芽りん片調査での罹病芽率は平年よりやや少ない発生であった。

しかし、本年 4 月実施の発病状況調査での発病果率（芽基部及び花こうの病斑）は、0.26%で平年（平年値 0.08%）よりやや多く、発生ほ場率は 14.71%で、平年（平年値 5.52%）より多い発生となった。

これは、2 月以降の平均気温が高かったことと、開花期前後に数日おきにまとまった降水があったことが要因として考えられた。なお、5 月以降の発生状況は平年並以下で推移した。

黒星病は、10 月から落葉期にかけての雨が多いと伝染しやすく、また、罹病した落葉、腋花芽のりん片が第一次伝染源となり、2 月以降の気温が高く降水量が多いと伝染しやすくなる。

このため、今後の天候によっては、本年同様に早期から本病が発生する可能性があるため、秋季以降の対策が必要である。

<炭疽病>

本年 9 月の巡回調査で、発病新梢率 1.12%（平年値 0.02%）、発生ほ場率 14.71%（平年値 1.05%）でいずれも平年より多い発生となった。

炭疽病は罹病した落葉、花芽鱗片が第一次伝染源となり、6 月上旬から 7 月にかけて、比較的高温で多湿な条件が続くと盛んに分生子が形成され、その後、多発するものとされている。

このため、炭疽病が発生した園では、本病の拡大を防止するために、秋季以降の対策が必要である。

なお、炭疽病は、葉に発生し、初期段階で葉身及び葉柄に 0.5～1.0 mm の微小黒点を生じ、その後大型病斑となり、さらに進展すると葉は黄化し早期落葉を引き起こす（写真 1）。葉柄部の微小黒点（写真 2）が診断のポイントとなる。

また、炭疽病の発病程度には品種間差があり、豊水・なつしずくは高く、長十郎・新高・二十世紀はやや高く、あきづき・幸水・新興・なつひかり・若光は比較的低いとの報告がある。



写真1 炭疽病により早期落葉したなし園



写真2 炭疽病罹病葉(葉柄部の微小黒点が特徴)

<秋冬季における防除（黒星病・炭疽病共通）>

1 秋季防除（10月中旬～11月中旬）

ア この時期の黒星病防除は、翌年の第一伝染源となる芽基部病斑の防除が極めて重要である。落葉期までにオキシラン水和剤 500 倍液（3 日前/9 回）を 10 日以上の間隔をあけて 2 回散布（黒星病多発園では 3 回散布）する。

なお、落葉が遅い園では、落葉期（80%程度が自然落葉したとき）に最終の散布を行う。

イ 徒長枝に薬液が十分にかかるよう、使用量は 300ℓ/10a 以上と多くする。

ウ 展着剤アビオン-E 2000 倍液を加用すると薬剤の耐雨性が高まる。

エ 炭疽病の多発園では、オキシラン水和剤の代わりにデランフロアブル 1000 倍液（60 日前/4 回）（表 1）を散布する（デランフロアブルはかぶれが問題となる場合があるので注意する）。

2 落葉以降の防除

ア 罹病落葉は黒星病・炭疽病の第一次伝染源となるため、落葉はかき集め園外に埋却するなど適切に処分する。または、ロータリー耕により、落葉を砕き、土中に埋める。

イ 徒長枝にある花芽も伝染源となるので、剪定枝も早期に園外に埋却するなど適切に処分する。

ウ 炭疽病の発生園では、強めの剪定を行い通風が良好となるようにする。

エ 黒星病には効果が高くて炭疽病には効果の低い薬剤もあるので、炭疽病の発生園では、炭疽病にも適用のある薬剤を取り入れる（表 1）。ただし、耐性菌発生防止のため、同一コードの農薬の連用は避ける。

なお、薬剤の選定等、疑問点がある場合は、普及指導員、営農指導員に相談すること。

表1 黒星病・炭疽病に登録のある農薬

商品名	適用病害名	希釈倍数	使用時期 ／使用回数	防除時期	FRAC コード
オキシラン水和剤	黒星病	500～600 倍	収穫3日前まで ／9回以内	収穫後～落葉期	M4 M1
	炭疽病	500 倍			
デランフロアブル	黒星病	1000 倍	収穫 60 日前まで ／4回以内	収穫後～落葉期 りん片脱落期 5月下旬	M9
	炭疽病				
オーソサイド水和剤80	黒星病	600～1000 倍	収穫3日前まで ／9回以内	催芽期～発芽期	M4
	炭疽病	800 倍			
チオノックフロアブル/ トレノックスフロアブル	黒星病	500 倍	収穫 30 日前まで ／5回以内	りん片脱落期 開花直前 開花期 受粉終了後 5月上旬	M3
	炭疽病				
ファンタジスタ顆粒水和剤	黒星病	3000～4000 倍	収穫前日まで ／3回以内	5月上旬	11
	炭疽病	3000 倍			
ストロビードライフフロアブル	黒星病	3000 倍	収穫前日まで ／3回以内	6月下旬	11
	炭疽病	2000 倍			

注1:農作物病害虫雑草防除指針(令和3年版)(1)なしア幸水・豊水・その他赤なしに記載のある農薬である(二十世紀では防除方法が異なるので注意する)。

注2:全ての薬剤の散布量は 200～700ℓ/10a、使用方法は散布である。

注3:黒星病の防除については、令和3年5月18日付け令和3年度病害発生予報第2号P3 II「これから注意を要する病害虫」を参照する。

注4:オキシラン水和剤はキャプタン(M4)と有機銅(M1)の混合剤である。

表2 殺菌剤の耐性リスク (FRACコード表日本版(2020年7月)より)

FRACコード	耐性リスク
M1、M3、M4、M9	全般的に低リスクとみなしている。
11	高/複数の耐性菌が発生。グループ内で交差耐性がある。

Ⅲ その他の情報

ビワを加害する果樹カメムシ類の来年の発生について～来年は多発生が予想されます！～

果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）の越冬後成虫による果実被害は、5月下旬から6月にかけて収穫時期となるビワで問題となる。特にチャバネアオカメムシは発生量の年次変動が激しく、多発生する年には甚大な被害を及ぼす。このため、前年に越冬後成虫の発生量を予測することが、二重袋^(注1)の手配など、早期に防除手段を選択するための産地情報として重要である。

病害虫防除課が、千葉県農林総合研究センター（暖地園芸研究所）が開発したチャバネアオカメムシ早期発生予測モデル^(注2)を用いて、2022年4～7月までの南房総地域における果樹カメムシ類の誘殺数を予測した結果、1万頭を超える予想となった（図）。また、9月に入ってから果樹予察灯では多数の果樹カメムシ類が誘引されており、フェロモントラップでも誘殺数は増加している。

このことから、来年は多発生が予想されるため、普段果樹カメムシ類の被害がないほ場でも被害が発生する恐れがある。そのため、飛来が始まる4月下旬以降に園内外をよく見回り、各ほ場での発生に注意する。また、今後発表される発生予察情報にも留意する。

注1：二重袋は果実をパラフィン紙で筒状に覆い、さらに外側を慣行袋で包むことで、果樹カメムシ類が刺す外側の袋と果面の間に空間が確保され、吸汁が抑制される効果がある。

注2：予測モデルは南房総地域のスギ雄花生産量（千葉県農林総合研究センター森林研究所による）と果樹カメムシ類の集合フェロモントラップ誘殺数を用いたものである（詳細は<https://www.pref.chiba.lg.jp/ninaite/shikenkenkyuu/h27.html>を参照）。

予測モデルによるチャバネアオカメムシ越冬後予想発生量は、1～100頭未満は少、100～1,000頭未満は中程度、1,000頭以上では多としている。

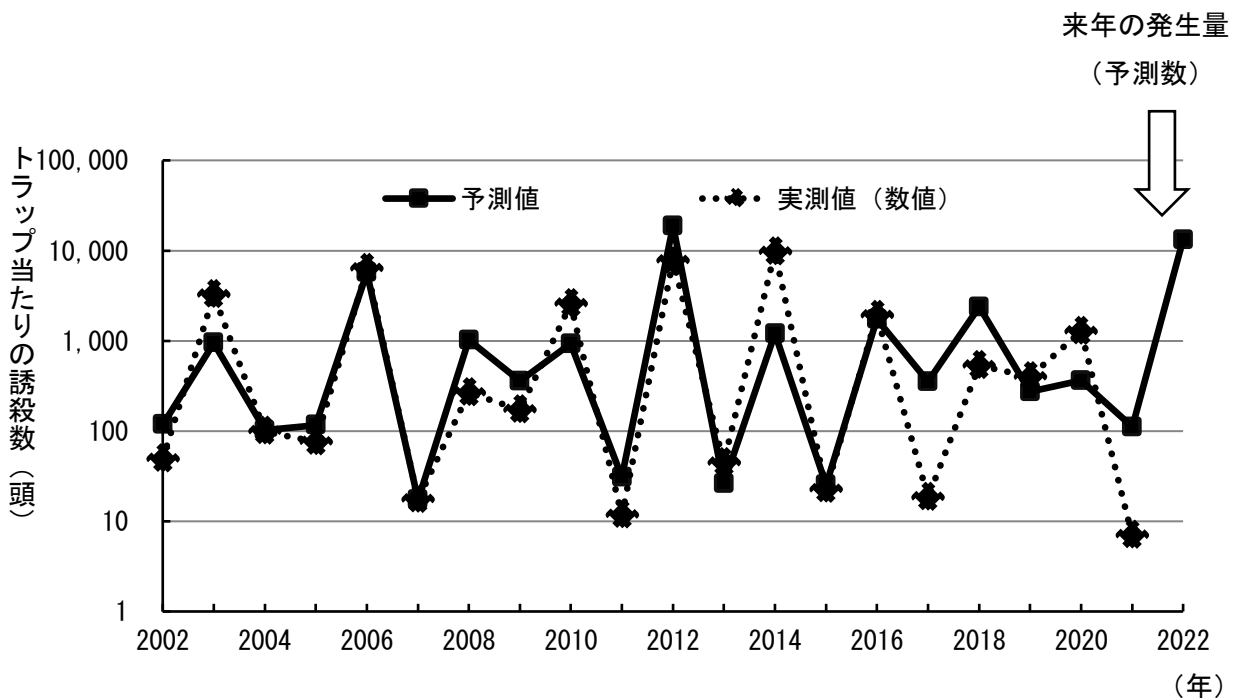


図 チャバネアオカメムシフェロモントラップ予測誘殺頭数及び実測誘殺頭数の年次変動

○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（イネ：8月中下旬、果樹・花き：9月下旬、サツマイモ・野菜：9月下旬～10月上旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考	
			本年値	平年値	前年値		
イネ (県内全域)	斑点米 黒点米(黒点症状米を含む) その他着色粒	発生粒率(%)	0.27	0.24	0.47	1.7mmで篩掛 けした玄米 5000粒で調査	
		発生粒率(%)	0.02	0.03	0.02		
		発生粒率(%)	0.12	0.21	0.11		
サツマイモ (印旛、香取)	ハスモンヨトウ ナカジロシタバ イモキバガ	100葉あたり寄生幼虫数	5.40	0.03	0.00		
		100葉あたり寄生幼虫数	0.20	0.48	0.20		
		被害葉率(%)	1.20	1.07	0.60		
夏秋トマト (山武、印旛)	灰色かび病	発病株率(%)	1.20	1.40	0.80		
		発病果率(%)	0.04	0.03	0.00		
		果実発病度	0.20	0.38	0.00		
	葉かび病	発病株率(%)	18.40	4.44	20.00		
		黄化葉巻病	発病株率(%)	6.30	2.11	2.40	
		オンシツコナジラミ	成虫寄生株率(%)	24.40	10.12	22.80	
	タバココナジラミ	成虫寄生株率(%)	30.40	1.72	8.40		
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.04	0.00		
	ハモグリバエ類	幼虫寄生株率(%)	10.40	1.00	0.00		
	アザミウマ類	成幼虫寄生株率(%)	0.00	10.16	1.20		
	コナジラミ類	黄色粘着トラップ誘殺数	439.60	126.59	327.10		
	アザミウマ類	黄色粘着トラップ誘殺数	0.80	64.97	1.40		
冬キャベツ (海匝)	菌核病 黒腐病 コナガ ハスモンヨトウ	発病株率(%)	0.00	0.00	0.00		
		発病度	0.00	0.25	0.00		
		25株当たり寄生幼虫蛹数	0.00	0.00	0.00		
		幼虫寄生株率(%)	0.00	0.10	0.00		
秋冬ネギ (山武、長生)	黒斑病 さび病 べと病 ネギアザミウマ ハスモンヨトウ シロイチモジヨトウ ネギコガ ネギハモグリバエ	発病度	2.10	6.01	0.90		
		発病度	0.00	0.03	0.00		
		発病株率(%)	0.00	0.40	0.00		
		被害度	27.70	21.26	24.80		
		被害株率(%)	0.80	0.24	0.00		
		被害株率(%)	4.00	0.24	1.20		
		被害株率(%)	0.40	0.26	0.00		
		被害度	29.20	9.76	9.60		
イチゴ (山武、海匝、安房)	うどんこ病 アブラムシ類 ハスモンヨトウ ハダニ類	発病株率(%)	0.00	1.95	0.27		
		成幼虫寄生株率(%)	2.89	2.96	5.91		
		幼虫寄生株率(%)	1.56	2.63	0.22		
		雌成虫寄生株率(%)	3.78	7.79	4.22		
ナシ (県内全域)	黒星病 炭疽病 ハマキムシ類 ハダニ類 アブラムシ類	発病葉率(%)	0.06	0.63	0.46		
		発病新梢率(%)	1.12	0.02	0.00		
		被害葉率(%)	0.00	0.03	0.00		
		雌成虫寄生葉率(%)	1.45	0.87	1.09		
		成幼虫寄生新梢率(%)	0.00	0.30	0.06		
温州ミカン (安房)	そうか病 かいよう病 黒点病 ヤノネカイガラムシ ミカンハダニ アブラムシ類 ミカンハモグリガ カメムシ類	果実発病度	0.24	0.12	0.44		
		果実発病度	0.00	0.00	0.00		
		果実発病度	2.08	0.92	2.72		
		成幼虫寄生果率(%)	0.00	0.02	0.00		
		雌成虫寄生葉率(%)	0.80	3.24	0.00		
		成幼虫寄生新梢率(%)	0.60	1.76	1.00		
		幼虫寄生葉率(%)	0.40	1.74	0.20		
		被害果率(%)	0.00	0.08	0.00		
		叩き落とし虫数	0.00	0.86	0.00		
		ヒノキ球果1枝あたり捕獲成幼虫数	0.86	0.92	0.06		
ビワ (安房)	灰斑病 アブラムシ類 カミキリムシ類	発病葉率(%)	0.00	1.65	4.50		
		成幼虫寄生葉率(%)	0.00	0.03	0.00		
		被害穴数	0.00	0.75	0.25		

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
カーネーション (安房)	萎凋病	発病株率 (%)	2.40	1.04	0.00	
	立枯病	発病株率 (%)	0.00	0.40	0.00	
	アザミウマ類	被害株率 (%)	1.60	22.73	16.00	
	シロイチモジヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.16	0.00	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率 (%)	0.80	0.40	0.00	
	ヨトウムシ類	被害株率 (%)	1.60	5.65	2.40	
	ハダニ類	雌成虫寄生株率 (%)	0.00	11.23	0.00	
	オオタバコガ	幼虫寄生株率 (%)	0.00	0.32	0.00	

トラップ月間誘殺数 (9月)

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備考
			本年値	平年値	前年値	
水稲予察灯	イネミズゾウムシ	干葉、香取、安房	0.3	0.3	0.3	頭/月
	セジロウンカ	〃	4.7	5.1	5.3	
	トビイロウンカ	〃	0.0	1.6	0.7	
	ヒメトビウンカ	〃	4.0	1.4	3.3	
	ツマグロヨコバイ	〃	1399.0	369.9	1018.3	
	フタオビコヤガ	〃	3.0	0.8	1.0	
	イネヨトウ	〃	9.0	10.1	12.7	
	ニカメイガ	〃	0.0	0.5	0.7	
	コブノメイガ	〃	0.0	0.0	0.0	
	イネクロカメムシ	〃	10.7	53.2	232.3	
	クモヘリカメムシ	〃	1.7	3.0	1.3	
	ホソハリカメムシ	〃	0.0	0.3	0.0	
	イネカメムシ	〃	7.0	3.6	11.7	
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	〃	2.0	4.0	0.0	
	アカスジカスミカメ	〃	21.3	34.0	26.7	
	ミナミアオカメムシ	〃	8.0	12.8	39.7	
(果樹等カメムシ類)	チャバネアオカメムシ	〃	8.3	3.4	0.7	頭/月
	クサギカメムシ	〃	0.7	0.9	0.0	
	ツヤアオカメムシ	〃	11.7	1.1	1.0	
	アオクサカメムシ	〃	0.0	0.3	0.3	
	イチモンジカメムシ	〃	0.0	0.4	0.3	
	ホソハリカメムシ	〃	0.0	0.0	0.0	
(コガネムシ類)	アカビロウドコガネ	〃	0.3	6.0	2.3	頭/月
	オオビロウドコガネ	〃	1.0	2.9	1.7	
	ヒメコガネ	〃	0.0	1.0	0.0	
	ドウガネブイブイ	〃	0.3	0.4	0.0	
	アオクロコガネ	〃	0.0	22.9	1.3	
	アオドウガネ	〃	60.0	11.4	25.0	
果樹予察灯	チャバネアオカメムシ	安房	71.0	11.2	1.0	頭/月
	クサギカメムシ	〃	20.0	6.0	0.0	
	ツヤアオカメムシ	〃	101.0	5.0	0.0	
	果樹カメムシ類	〃	192.0	22.2	1.0	
	アオクサカメムシ	〃	0.0	0.4	0.0	
	ミナミアオカメムシ	〃	0.0	0.2	0.0	

注) 種類別の単位の違いに注意

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数			備 考
			本年値	平年値	前年値	
性フェロモン	ドウガネブイブイ	印旛、香取	3.5	2.6	3.1	頭/日
	ヒメコガネ	印旛、香取	0.7	1.0	1.2	
	コナガ	海匠	0.3	0.4	0.0	
	ハスモンヨトウ	県内全域	21.0	28.2	29.1	
	シロイチモジヨトウ	県内全域	4.7	1.6	0.8	
	オオタバコガ	県内全域	2.6	3.6	3.4	
	タバコガ	県内全域	0.8	2.0	1.5	
	ナシヒメシンクイ	東葛飾、印旛	2.9	1.4	1.2	
	モモシンクイガ	東葛飾、印旛	0.0	0.0	0.0	
	シンクイムシ類	東葛飾、印旛	2.9	1.4	1.2	
	チャハマキ	東葛飾、印旛	1.2	0.2	0.4	
	チャノコカクモンハマキ	東葛飾、印旛	1.6	1.6	0.7	
	ハマキムシ類	東葛飾、印旛	2.8	1.8	1.0	
	チャバネアオカメムシ 集合フェロモン	チャバネアオカメムシ	県内全域	3.7	5.4	
ツヤアオカメムシ		〃	1.3	1.3	0.3	
クサギカメムシ		〃	0.3	0.4	0.3	
カメムシ類		〃	5.3	7.1	5.5	
マルボシヒラタヤドリバエ(天敵)		〃	0.1	0.4	0.3	

注) 種類別の単位の違いに注意

○気象予報

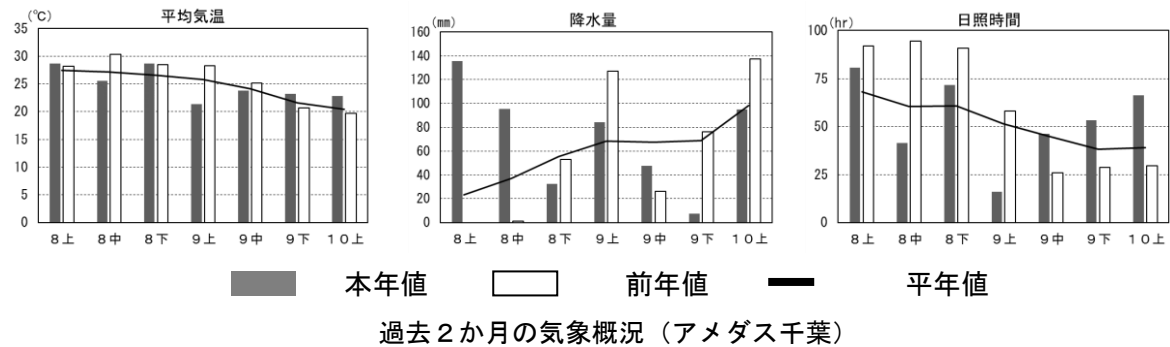
10月14日気象庁発表
関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

向こう1か月間の各気象要素の平年値
(10月18日～11月16日)

要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	30	40	30
降水量	20	40	40
日照時間	40	40	20

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	15.8	16.7	15.9
降水量(mm)	129.5	178.0	180.6
日照時間(hr)	140.3	140.5	143.6

出典：気象庁ホームページ



農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

・病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>

・次回の発行予定は11月17日です。なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。

・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。

<https://pesticide.maff.go.jp/>

問い合わせ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp

